

久保田市長の【第55回】 全力投球



一年の歩みと、次へのバトン

現場で感じた一年

三月を迎え、この一年を振り返ると、現場での光景が次々と思ひ浮かびます。子どもたちが「みろっこ」で思い切り体を動かす姿、旧大東町議場で「ここが第三の居場所になるんだね」と話す地域のみなさんの声。机の上の資料だけではなく、人の表情や言葉に触れながら、市政を進めてきた一年でした。

悩みながら進めた判断

正直に言えば、全てが順調だったわけではありません。財政が厳しい中で、「本当に今やるべきか」「将来に責任を持てる判断か」と、立ち止まった場面も何度もありました。部活動の地域クラブ化や子どもの居場所づくり、産業基盤の整備など、先送りすれば楽になる選択肢もありましたが、次の世代のために進めるべきだと判断してきました。

支えてくれた職員の方

特に年始には、突然の衆議院解散により、選挙準備という大きな業務が加わりました。限られた時間の中で、通常業務と並行しながら、滞りなく選挙を実施できたのは、現場で対応にあたった職員一人ひとりの冷静な判断と献身的な努力があつてこそです。市長として、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。

次の一年へ

まちづくりのバトンとは、事業そのものではなく、「挑戦している」「支え合えば前に進める」という経験と信頼だと考えています。四月から新しい年度が始まります。この一年で積み上げた現場の知恵と力を次につなぎ、市民のみなさまとともに、次の世代に誇れる掛川を築いていきます。一年間、本当にありがとうございました。



▲昨年7月にオープンした mirocco(みろっこ)

地域おこし 協力隊通信

Vol.28

問くらしデザイン課

(☎21-1209)



キタムラジュン

横須賀城築城450周年 プレイベント

1月、横須賀城跡で「かけがわ テイラノフェス」が開催されました。お城と恐竜。異なる時代の掛け合わせが現代によみがえるユニークな企画です。好天に恵まれ、運営のみなさん・地域の事業者さんの協力で、城跡には子どもたちの笑い声が響き渡りました。

五感で旅するとうもんの冬

掛川市海岸線エリアの魅力を深掘りする市民チャレンジ事業に参加しました。

大洲地区にある「晴明塚」は、陰陽師・安倍晴明にまつわる石塚で、掛川100景にも紹介されています。地域に残る遠州七不思議や、津波を封じ込めたという言い伝えなど、知らないことばかり。ふだん何気なく通り過ぎていた場所との距離が、一気に近くなった気がしました。

海岸線エリアでは、弁天大橋の

落書き清掃活動なども行っています。凧揚げまつりやギャラリーでの個展など、季節ごとの催しにもぜひご注目ください。

グッドニュースかけがわ

先日、友人と「初めて観に行つたコンサートは何だった？」という話になりました。かつてはつま恋で伝説的なライブが開催され、近年はエコパスタジアムでのコンサートに県外からの人も押し寄せ、掛川。ふだん直接見ることのできない好きなアーティストが、自分のまちにやってくると知ると、なんだかうれしい気分になりますよね。

そんなアーティストの魅力と地域の文化を掛け合わせた取り組みを、現在企画中です(詳細が決まりましたら掛川市のWEBサイトでもご紹介させていただきます)。



「とうもんの里」から眺める冬の夕日

※地域おこし協力隊は、総務省が推進する地域活性化の一環で、地域資源の発掘と持続可能な発展を目指す取り組みです。